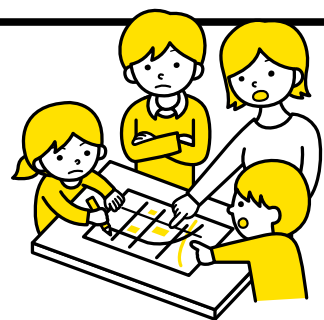




9月1日は防災の日

9月1日は関東大震災(大正12年)が発生した日です。「災害による被害を最小限に抑えるためにはどうしたらよいか」を一人ひとりが考え、そのための活動をするきっかけとなる日を作ろうとのことで、防災の日が創設されました。

災害には様々な種類があります

西原町で想定されている最大の地震・津波の被害を知っていますか?西原町において被害が大きくなると予測されている地震は、「沖縄本島南部スラブ地震」「沖縄本島南東沖地震」「沖縄本島東方沖地震」「沖縄本島南東沖地震3連動」の4つがあります。 その中でも最大の被害が出ると予測されている地震は「沖縄本島南東沖地震3連動」です。**マグニチュード9.0**、沖縄本島および周辺において**震度6強**を観測するだろうとされています。下記の表に被害想定を示しました。

死者		避難者(避難所内)		全壊	断水 (1週間後)	停電 (1週間後)
地震	津波	1日後	1週間後			
7人	384人	6,972人	6,649人	1,677棟	34,412人	2,015棟

〈H25年度 沖縄県地震被害想定調査〉

実際の被害状況にもよりますが、地震発生から3日目までで考えられるおおよその時間割は下記の表の通りです。

命を守る 時間帯	地震発生 0分～2分	自分の身を守る	テーブルの下にもぐるなど、落下物から頭を守る。固定していない家具から離れる。調理中であれば台所から離れる。外にいるときは、かばんなどで頭を守る。
二次被害を防ぐ 時間帯	地震直後 2分～5分	火の始末 出口の確保	揺れがおさまったら、火の始末。もし出火していれば小さい火のうちに消火。引き続き地震に備えて、ドアを開けるなど出口の確保。ガラスの破片などでけがしないように、靴を履く。
	5分～10分	わが家の安全確保	家族の安否確認。家屋の被害状況を点検し、引き続き地震で被害拡大のおそれがあれば避難の準備。沿岸部では津波に備え、すぐに高い所へ避難。ラジオなどで情報収集。
まちを守る 時間帯	10分～半日	隣近所の安否確認と助け合い	隣近所で生き埋めになっている人はいないか、火災が起きていないか、声をかけ合って確認。生き埋めやけが人がいれば協力しあって救出救護。
生活を守る 時間帯	半日～3日	2～3日は自分でしのぐ	電気・水道などのライフラインをはじめ食料の流通が途絶えるため、3日間程度は自宅にある飲料水・食糧などでしのぐ。隣近所で食材を持ち寄って炊き出しをする。
復旧・復興へ	3日以降	本格的な復旧開始	防災機関の応急・復旧活動が本格化。ボランティアが被災地に来るなど被災地外から支援が来る。住民、ボランティア、行政などが一体となり、復旧・復興への歩みを始める。

1年に1度の防災の日 今年の防災の日では、トイレ備蓄をしませんか?

「そうだ!備蓄をしよう!」と思っても、必要と思われるものが限りなく増えてしまい、それらを備えるのは難しいと感じ、なかなか行動に移せない人も多いのではないのでしょうか。また、乳幼児がいる家庭、幼児～小学生がいる家庭、中高生や大学生、要配慮者がいる家庭、ペットのいる家庭など、それぞれ必要なものが変わってきます。実際に行動に移しても、思っていたよりお金がかかることが発覚したり、置くスペースが必要だったり、思い立って即行動を起こせたとしても、1日や1週間で、必要だと思われる量を揃えるのは難しいと思います。

そこで、今年の防災の日ではまず、どの家庭にも当てはまる**トイレの備蓄**について考えてみませんか?

■トイレの備えがないと、トイレを我慢することにつながります

くさい、汚れている、暗い、怖い、屋外にある、和式でしゃがめない、遠い等の理由でトイレに行きたくないと感じるかもしれません。すると、水分摂取を抑える人が出てきて、熱中症やエコノミークラス症候群、命に関わる事態につながってしまいます。



1日に何回トイレに行きますか?

内閣府(防災担当)が出している「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」では、1日当たりの平均的なトイレ使用回数の目安は5回と記載されています。西原町地域防災計画において、町民の役割として、「飲料水、食料および生活用品等の7日分以上の備蓄と点検」が定められています。もし4人家族であれば、次のような計算となり、**140回分のトイレが必要**とされます。

$$1日5回 \times 家族の人数 \times 7日分 = 140回分$$



▲町内のホームセンター等で販売されている商品の一例です。

携帯トイレと一緒に備えておくもの

- ☐ 45L以上のゴミ袋
- ☐ トイレ用ペーパー
- ☐ 使用済み携帯トイレのにおい漏れを防いで保存できるもの
- ☐ 衛生用品 (ウェットティッシュ、消毒液、掃除用品)
- ☐ ランタンなどの照明



災害において、平時の際にできることはたくさんあって、その中のテーマのひとつである「備蓄」だけを考えようとしても、たくさんの情報があふれています。

今年の防災の日では、何かひとつにしばって行動にうつしてみませんか?

参考文献

「防災士教本」、「今さら聞けない防災の超基本」、「トイレからはじめる防災ハンドブック」、「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」



お問い合わせ ☎ 環境安全課 生活安全係 098-945-5018